

麻布地区総合支所協働推進課
障害者福祉課
用地・施設活用担当
防災課
人 事 課
生涯学習スポーツ振興課

旧麻布保育園用地の活用について

旧麻布保育園用地（以下「本用地」といいます。）は、弓道場及び多目的室（運動スペース）、障害者グループホーム、災害対策住宅、屋上菜園など、複合施設として整備します。

1 本用地の概要等

(1) 概要

所在地	港区元麻布三丁目9番11号
敷地面積	1,717.55㎡
用途地域等	第一種住居地域（前面道路から20mまで） 第一種中高層住居専用地域（前面道路から20m以降） 日影規制値(時間) 敷地境界線からの水平距離が10m以内の範囲 3時間 敷地境界線からの水平距離が10mを超える範囲 2時間 容積率300%、建蔽率60% 第二種高度地区(絶対高さ22m)

(2) 位置



(3) 経緯等

昭和39年11月	旧麻布保育園及び旧麻布福祉会館建物しゅん工
平成16年11月	旧麻布保育園が鳥居坂グラウンドへ仮移転
平成17年4月	旧麻布いきいきプラザが敷地内へ仮移転
平成26年11月	旧麻布保育園が麻布地区総合支所隣地へ移転
令和6年10月	一時利用(緑地、シェアリングポート等)の開始

2 整備の目的

(1) 弓道場及び多目的室（運動スペース）

ア 現状

区立弓道場は、昭和42年11月に檜町弓道場が開設され、長い間活用されてきましたが、施設の老朽化及び赤坂九丁目地区における開発計画に伴い、平成16年11月に廃止されました。その後は、赤坂弓道場や愛宕弓道場を暫定的に開設しましたが、現在に至るまで弓道場の本格整備に適した用地を確保することができず、平成31年2月以降は暫定施設、本格施設ともに整備できていない状況が続いています。

区立スポーツ施設としての多目的室は、現在、港区スポーツセンターに設置されています。また、令和11年度にしゅん工予定の（仮称）北青山三丁目地区スポーツ施設にも設置する予定です。

イ 必要性

現在、区有施設で唯一、弓道ができる港区スポーツセンターの武道場3（アーチェリー兼用）は、弓道での利用可能人数は年間約5,000人ですが、令和5年度には利用者が8,700人を超え、新型コロナウイルス感染症の収束に伴い利用者数が更に増加しており、港区スポーツセンター以外の弓道利用者の新たな受け皿となる場所が必要です。

多目的室（運動スペース）は、子どもから高齢者まで幅広い年代の様々なニーズに対応できるスポーツ施設として、区内の多くの地域に設置することで、区民の多様なスポーツ需要に対応することが可能です。

なお、弓道場及び多目的室（運動スペース）は、災害時においては、地域の安全安心のため、区民避難所としての活用を検討します。

(2) 障害者グループホーム（日中サービス支援型グループホーム）

ア 現状

障害者グループホームは、障害者が地域社会における自立生活を目指し、共同で生活する施設です。令和6年4月現在、区内に、知的障害者グループホーム9か所（総定員60名）、精神障害者グループホーム3か所（総定員20名）の合計12か所のグループホームがあり、いずれの施設も満床に近い状態です。

今後の整備としては、令和7年4月に障害者グループホーム南青山（知的障害者、精神障害者各5名）、令和8年1月に障害者グループホーム高浜（知的障害者6名）、及び令和11年度、南麻布三丁目に日中サービス支援型グループホーム（重度知的障害者20名）を予定しています。

イ 必要性

区の障害者数は、区の総人口と同等の増加率で推移しており、今後も増加が見込まれます。また、高齢化に伴う身体や認知機能などの低下により、重度の障害者が今後さらに増加することが見込まれます。

令和4年度に実施した「くらしと健康の調査」では、将来的な日中サー

ビス支援型グループホームへの入居について、知的障害者、身体障害者、精神障害者の順に希望数が多く、そのうち、重度の知的または身体障害者は32名いる状況です。本調査での未回答者もいることから（回答率約47%）、更なる需要が見込まれます。

そのため、グループホームの類型は、重度障害者に対応できる日中サービス支援型グループホームとし、区立施設として整備・運営します。利用対象者は、特に将来的な供給不足が見込まれる重症心身障害者（重度の肢体不自由と重度の知的障害の重複者）の男女を基本とします。

（3）災害対策住宅

ア 現状

区は、夜間や休日等、勤務時間外に災害が発生した際、より安定的に初動態勢要員を確保するため、区内に設置する職員住宅を「災害対策住宅」として整備を進めており、整備目標を197戸としています。

イ 必要性

災害対策住宅の整備目標戸数を達成するため、区有施設の新築・改築等、様々な機会を捉え、災害対策住宅の整備を進めています。現在の設置戸数は164戸（独身89戸、家族75戸）で、今後、整備予定の白金一丁目の8戸（独身6戸、家族2戸）を加えても、25戸不足しています。

（4）屋上菜園

ア 現状

区は、区民や民間企業等との協働により、自然に触れ合いながら多世代間の交流を深める事業として、芝浦公園内の田んぼや農園での収穫体験、都立お台場海浜公園での海苔づくり、三田いきいきプラザ屋上でのミツバチ飼育及びハチミツ採取を実施しています。

イ 必要性

麻布地区内の保育園やいきいきプラザの緑地での土いじりなどの自然体験は、子どもや高齢者に好評を得ています。また、地域間子ども交流事業の自然体験には毎年、応募者が参加定員を超過するなど、多くの区民が自然体験に期待を寄せています。

3 今後のスケジュール(予定)

令和 6年11月～	地域住民への説明及び意見聴取
令和 7年度～	整備計画策定、基本設計・実施設計
令和10年度～	工事着工
令和13年度	しゅん工